

「よい子 強い子 伊丹の子」

伊丹っ子



学校だよりNo. 35

令和5年1月19日

伊丹市立伊丹小学校

校長 磯田 かおり

学校周辺の樹木剪定 感謝！

校庭に約2万本の木がある伊丹小学校。まるで森の中にいるように心地よい日陰ができ、たくさんの虫や鳥もやってきます。

子どもたちは、柑橘類の木に集まる蝶の幼虫を探したり、いろいろな種類のどんぐり拾いを楽しんだり、街中であっても自然に恵まれた環境の中で心豊かに成長しています。

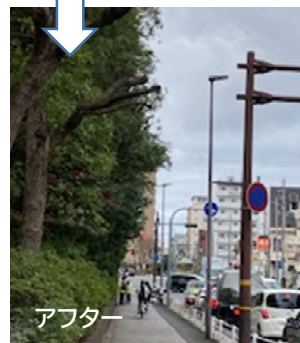
しかし、校内だけでなく周辺の歩道にも枝葉を伸ばす草木に、本校の2人の技能員を中心として、多くのボランティアの方々にも落ち葉を掃く等、環境整備のお力添えをいただいています。

また、市教育委員会とも連携して高木の剪定も計画的に進めています。1月は南側歩道にせり出す高木の枝を業者に大掛かりに剪定してもらいました。すっきりした様子を見てくださいね。

毎年東西南北の歩道沿いの剪定をすることは難しいのですが、これからも地域とともにある学校として環境整備に努めます。



ビフォー



アフター



1・17 防災訓練

阪神・淡路大震災から28年が過ぎました。

「生きていてほしかった。」「死なないでほしかった。」

「生きて夢を実現したかっただろう。」等と、今月は、亡

くなられた方々の人生と、ご家族の思いが、毎日のように新聞に掲載されています。

南海トラフ地震が今後30年以内に70～80%、40年以内に90%の確率で起きると予想されています。

阪神・淡路大震災を経験していない世代も増えてきていますが、大地震のことを「知ろう」とすることが大切です。そして、その教訓を生かして自分やみんなの命を守るために行動できるように、日頃から考えたり備えたりしておくことができればと思います。

防災訓練では、子どもたちは、真剣に地震を想定した避難をし、災害から身を守って、命を大切にしなければならぬと、考える機会になったことと思います。

子どもだけでなく、大人も日頃から危機意識をもって様々なことに備えておくことが必要です。この機会にご家族でも、いざという時のために連絡の取り方や備蓄、転倒防止の備えなど、話し合ってみてください。

1月17日は、「防災とボランティアの日」

阪神・淡路大震災の無残な映像がニュースで流れ、日本国内だけでなく世界からもたくさんのボランティアが駆けつけ、ボランティア活動が日本で一気に広がりました。

この年は、「ボランティア元年」と言われているそうです。人と人が優しい気持ちで助け合うことで、きっと困難を乗り越えることができます。

そんな優しい気持ちや関係を大切に育んでいきたいですね。